

鈴鹿市立天栄中学校 第4回学校運営協議会 報告書

1 日時 令和5年11月16日（木）午前9：00～午前11：00

2 場所 天栄中学校被服室

3 あいさつ

*委員長 今日の授業参観を楽しみにしている。

2年生の職場体験では、芋掘りの手伝いや児童との関わり等、上手に接していた。

*学校長 参観前に、文化祭合唱ビデオを一部視聴していただく。また、市音楽会では、他校の先生方から、伸びやかな声や楽しそうな様子を評価していただいた。

4 拡大学校運営協議会の振り返り

- ・他校の関係者と話し合うことはあまりないので、貴重な機会ではないか。

- ・稲生地区（生徒数の40%を占める）の参加は初めて。

- ・その場で話してそれきりになってしまわないような取り組みが必要。

グループ内で出た意見をどのように生かすか。同じことの繰り返しではなく、共有、アクションにつなげていく必要。このような取り組みがあって、コミュニティスクールとしての働きになるのでは。

- ・まちづくり協議会のメンバーと他のメンバーで構成されていた。まちづくり協議会のメンバーからは「地域の行事に参加しよう」と発信できたが、メンバー構成の工夫を。

- ・討議のテーマを細かく設定すると、もっと活発な討議になるのではないか。

- ・コミュニケーション（アイスブレイキング等）をとってから話し合うとよかった。遠慮しがちな空気感を感じた。

- ・グループ分けの工夫が必要ではないか。

5 報告・協議事項

（1）天栄中学校駐車場の拡充について（委員長）

- ・夏に案を作成し、保護者の困り感を聞き取った。

- ・2学期に教職員の困り感を聞き取った。

- ・10月下旬に、委員長より教育委員会事務局教育支援課に提出した。

- ・年度内に、その後の対応について教育政策課に問い合わせていく。

- ・先日の教育委員会に参加した（大木中が会場）が、駐車場が整備されていた。

旧校舎を解体中。図書館を地域に開放できる方向だとのこと。

（2）学校の様子

①文化祭の様子（一部動画視聴）

- ・本当に一生懸命、迫力のある歌声だった。練習中から地域の方も驚くほどだった。

- ・久しぶりに、家族や地域の方の前で演奏する場があると良い。
実際の演奏は、これが合唱だという感じだった。またホールで開催できるとよい。
- ・本番までの取り組みの様子も知った中で保護者として聴くことができ、貴重な機会でもある。
- ・与えられた条件の中だからこそ、より良いアイデアを生み出していくことができるのではないかな。
- ・地域の老人会等に賛助依頼することができるか。
→ 吹奏楽部等の活動がある。お声掛けいただければ可能。
- ・春に観た時と比べ、教室や廊下の掲示が豊富になっていて、学校の様子がよく分かった。
- ・授業でも活発な様子が見られた。
- ・半年前より生徒が大きく成長していた。廊下を歩いているときの挨拶もよかった。
- ・文化祭は一体感があってよかった。
- ・クラスも明るい感じがした。

(3) 教育活動等について

学校長より、2学期の教育活動について報告がなされた。

2年生 キャリア教育の一環で、夢に向かうための取り組みを実施した。

3年生 進路説明会開催。いよいよ自分の進路を決めていく時期となった。

1年生 社会見学(リトルワールド)で飯盒炊飯を行った。家庭科の調理実習も含めて手際が良かった。

(4) 全国学調、みえスタディ・チェックの結果および分析について

学校長より、別紙資料にもとづいて、学校づくりおよび調査結果・分析について説明がなされた。

*「つながり」と「まなび」のある学校づくりに取り組んでいる。

*2つの調査とも、これからの子どもたちに必要な力を測る指標となっている

《結果》

- ・全国学調 全国平均比+ ある程度力を発揮できた。
- ・みえスタディ・チェック 2年 数学県比- 計算力を高める必要がある。
- 1年 国語県比+ 算数・理科にも好影響が見られる。

《分析》

- ・スタンダードな問題には一定の理解
- ・多角的、思考が必要な問題に弱み。
- ・受け身になる授業では身につかない

《鳴門アンケート「安心して学べる学校を目指して」》

- ・肯定的回答 市比+
⑥の肯定的結果を、できる限り100%を目指す。
そのために、④を高めることが教師にも生徒にも必要。

《授業改善》

- * 「主体的、対話的で深い学び」が求められている
- * AIが発達しているが、最後は人間の力が必要。本校では、協働課題を取り入れ、思考・探究・協働する力を育成している。
- * 「どの子も一人にしない」ことを大切にして、グループを積極的に活用している。
教師は「ファシリテーター」となって、子どもの困り感に寄り添うことを目指している。
- * 本物の力「生きる力」を育てたい
「授業づくりは学校づくり」と捉えて取り組んでいる。

《アンケートから見える課題》

- ①② 本校の課題である「つながり」を築く必要がある。
- ⑤を高める必要がある。教師自身が手本となることが大切であると捉えている。

《不登校対策》

- ・承認活動 天栄アプリシエイターズ 等
- ・レジリエンス教育（県教育委員会のプログラム）

《校内研修の充実》

- * 教師もつながって協働的な研修を実施している。
 - ・対話を中心に主体的・能動的な活動になるような工夫
 - ・心理的安全性を大切にしたい、皆でつながり合う取組

《教師アンケート》

- * 本校教員は、組織的取り組みを実感している（肯定的回答100%）。

（6）意見交換（授業参観の感想等も）

- ・学力の二極化が気になる。平均だけでは測れないのではないかな。
- ・前年の三重スタディ・チェックと比較すると、中学校の学びの結果が下がっているのではないかな。
 - 2年生は不登校が多い。いろいろな面で支えが必要である。
行事等で「多様な出会い」を設定している。
1学期に比べると成長しているが、まだまだ課題がある。
- ・学校の授業で「わからない」という生徒に対する対応は？
 - グループを活用すると共に、「わかる子だけで進む」授業から「困っている子に寄り添う」授業へ転換を図っている。
- ・どの段階で子どもが理解できたのか等、アンケートを工夫すると良いのではないかな。
- ・「わからないと」いえないことが一番の課題だと思う。
- ・「わからないことがわからないといえる」ことが大切だと思う。
- ・教室前面掲示の「学びの3ルール」が実践できれば、かなりの効果があると思う。
「教師がファシリテーター」になる授業づくりがこれから必要。
- ・一方で、教師の負担にならない様、配慮してほしい。教師の心理的ケアもお願いしたい。
- ・天栄中にいじめはあるかな？
 - 「ある」と考えている。教師も生徒も、見逃さない学校にしていかなければならな

- いと考えている。「あるもの」だと考えて、アンテナを高くして観ていく必要がある。
- ・ いじめられていた子のケアを、いろいろな面で行ってほしい
 - ・ いじめを「早く発見していく」ことが必要である。悪化するまでに対応する必要がある。
 - 積極的認知に取り組んでいる。
 - 信頼のある「つながり」を、授業他、教育活動全体で育んでいる。
「生徒指導提要」が全面改訂された。事後の対応から「発達支持的生徒指導」へ変わっていく必要がある。

6 CSコーディネーター（鈴鹿市教育委員会教育支援課）より

- * 拡大学校運営協議会は、情報交換を一番の狙いとして実施している。今後は、次のステップに進んでいく必要があると感じた。
- * 文化祭においてオンラインで合唱を校区の小学校へ配信したのは、非常に良い取組である。
- * 授業、学校の様子を観ていただいた。春・秋の2回観ていただくことで、子どもの成長、変容、課題を見取ることができた。今後行われる学校関係者評価の視点にしていきたい。
- * 意見交換で、さまざまな意見が出た。教職員に伝え、子どもたちの学力向上に生かしてほしい。

以上

次回（第5回）令和6年1月19日（金）16：00
天栄中学校被服室